様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　６ 月 ２９ 日現在

機関番号：３５４１２
研究種目：若手研究(B)
研究期間：2017～2022
課題番号：１７Ｋ１３３５２

研究課題名（和文）近代ベルギーの国家形成と音楽：音楽理論家の理論・思想・公教育再組織活動の観点から

研究課題名（英文）Relations between the Formation of the Modern State of Belgium and Music, Focusing on Music Theorists' Construction of Systems for Public Music Education

研究代表者
大迫　知佳子（Osako, Chikako）

広島文化学園大学・学芸学部・准教授

研究者番号：４０６２４２１８

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,000,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、近代ベルギーにおける国家形成に音楽が果たした役割を明らかにすることであった。そのため、「ブリュッセルおよびアントウェルペン王立音楽院の院長（音楽理論家）たちが、どのような音楽理論・思想に基づいて、どのように音楽専門公教育を再組織したか」ということに焦点を当てて、分析・考察を行った。結果として、フランドル楽派・フランデレンの歴史という共通の遺産をもとに、院長たちが様々な考え方（例えば民族主義的な考え方等）を拠り所として、国の方針と関連し合いながら、音楽専門公教育の再組織という面で国家形成を助けた過程を解明することができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究の学術的な意義は、在白の諸研究機関における一次資料の調査・収集を踏まえて、これまで研究に乏しかった近代ベルギーにおける国家形成と音楽の関係の一側面を解明したことである。本研究の社会的意義は、ベルギーというひとつの国の中で複数の言語地域の音楽専門公教育が様々な形で共存していく過程を示すことで、多文化共生という重要な視点への手がかりを得られたことである。

研究成果の概要（英文）：This study examines the role of music in the formation of the modern state of Belgium. It focuses on how conservatory directors and other music theorists re-organized the public professional music education system at the Royal Conservatory of Brussels and the Royal Conservatory of Antwerp. Through a detailed analysis of the actions, philosophies, and musical thought of conservatory directors, it describes how the two conservatories were founded on particular ideals(be they nationalist, cosmopolitan and so forth) in which the common heritage of Flanders interacted with new national policies.

研究分野：音楽学

キーワード：ベルギー　音楽史　ナショナリズム

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

本研究開始前の、報告者の研究テーマは、ブリュッセル王立音楽院初代院長フランソワ=ジョゼフ・フェティス(1784-1871)の音楽理論・思想を解明することであった。フェティスの母国ベルギーは、1830 年の独立革命後、音楽文化政策を重視し、この地が西洋音楽文化の中枢にあったフランドル楽派活躍期の文化的隆盛を目指すことで、国の再建・発展を助けた。しかし、「近代国家ベルギー形成と音楽の関係」に関する本格的な研究はなく、主要な国公立音楽関連施設の歴史の解明にとどまっていた。故に報告者は、ベルギー音楽界でのフェティスの影響力に鑑みて、フェティスの音楽理論・思想・公教育構築活動の観点からこの問題に取り組み始めた。その過程で、a) 幾人かのベルギー人音楽理論家達の理論・思想と、国家再建の原理を説く社会学思想が、生理学的視点で関連づけられていたこと、b) フェティスだけでなく、ベルギー諸言語地域の王立音楽院院長であった音楽理論家達も、理論・思想の交流の下、音楽専門公教育再組織に尽力したこと、c) その際、彼らはベルギー各言語地域に根付く仏・蘭文化間の均衡に苦慮し、彼らが創出しようとするナショナル・アイデンティティを巡り対立・折衷・変容が起こったこと、が示唆された。これらの示唆から、同国形成と音楽の関係を総合的に解明するためには、ベルギー諸言語地域の音楽理論家達が多様な音楽文化均衡の中でナショナル・アイデンティティを模索し、最終的に国民を文化的に統合していく諸相を考察する必要があると思い至った。実際、Deprez; Vos (1989) 、岩本; 石部 (2013) 等の研究で、各人文科学分野の研究者達が、近代ベルギーにおける複雑な文化均衡の中での文化統合の在り方を論じ、重要な研究主題に位置づけていた。したがって、その総合的な解明のためには、音楽分野の研究への着手が必要であった。

２．研究の目的

本研究の目的は、近代ベルギーの国家形成に音楽が果たした役割を解明することであった。そのため、独立革命後のベルギー諸王立音楽院で院長職に在った音楽理論家達の音楽理論・思想と、その理論・思想を拠り所とした音楽専門公教育再組織活動という観点から、彼らが国内の言語地域（仏・蘭地域）の多様な音楽文化の均衡を保ちつつ行った国民の文化的統合の在り方を考察することを目指した。

３．研究の方法

本研究は、以下の方法で行なった。なお、分析資料に関しては、ベルギー王立アカデミー附属図書館、ベルギー王立図書館、ブリュッセル王立音楽院附属図書館、ブリュッセル自由大学附属図書館、およびアントウェルペン王立音楽院附属図書館にて調査・収集を行なった。

(1) 音楽・社会学・生理学に関する理論・思想書の分析

ベルギーの音楽理論家達の著書および関連雑誌記事の分析から、ベルギーの音楽理論家達の理論・思想を解明した。この時、先行研究から、ベルギーの音楽理論・思想への仏独の音楽理論・思想の影響も整理した。さらに、コント周辺のフランス社会学書および先行研究から、この時代の社会学思想を整理した。

(2) ベルギー音楽理論・思想とベルギー文学思想との関連に関する資料分析・考察

３-(1) と文学分野の先行研究の分析から、ベルギーの音楽理論・思想と文学思想の関係を考察した。

(3) ベルギーにおける音楽専門公教育再組織過程の解明

ベルギーの王立音楽院のうち、ブリュッセル王立音楽院とアントウェルペン王立音楽院の歴史に関する先行研究を網羅的に検討した。また、一次・二次資料から、王立音楽院開校までの経緯、教育体系・教育課程の変遷を、国家政策との関係、各音楽院間の均衡、諸外国の影響が窺える部分を中心に分析・整理した。

４．研究成果

(1) ブリュッセルにおける状況

ブリュッセル王立音楽院初代院長を務めたフェティスは、『ベルギー王国における音楽に関する組織計画』(Fétis 1832) にしたがって、新しいブリュッセル王立音楽院を中心とした音楽の専門公教育を、国王とベルギー政府の協力およびヨーロッパ諸国の人的・文化的資源活用の下、ベルギー全土で再組織することを目指した。結果として、フェティスは、ナショナリティ(民族的)概念のない国家主義的なナショナリズムに基づいてブリュッセル王立音楽院の再組織を行うこととなった。しかし一方で、彼は、ベルギー建国前のベルギー地域出身の音楽家の功績を「ベルギー」の功績として論じるという面も併せ持っていた (大迫 2019)。このことに関連して、『ラ・ベルジーク・ミュジカル』誌でのベルギー音楽史に関するオーギュスト=ルイ・ゴーソワン (1814-1846) の連載で「西洋音楽を創ったベルギー楽派」が強調されたこと、それによって、西洋音楽発展の源泉であり、基礎であり、中心である「ベルギー音楽」像が創り出され、啓蒙されていた

ことも指摘した（大迫 2022）。
フェティスからブリュッセル王立音楽院院長を引き継いだフランソワ=オーギュスト・ヘファールト(1828-1908)は、1871 年の院長就任後、音楽院の再組織を行なった。再組織には、音楽に関する優れた要素(理論･人材等)を諸外国から取り入れた教育を目指すフェティスの考え方が、基本的には引き継がれて反映された。この背景には、ベルギーを「源を同じくするヨーロッパ芸術の発展を担う国々のひとつ」と考えるヘファールトのコスモポリタニズム的な考え方があった。一方で、彼の、ベルギー国家行事に関連する作曲活動やベルギー民謡に対する考え方には、フランデレンの音楽・歴史・伝説等とベルギーとを結び付ける姿勢も見られた（大迫 2020）。

(2) アントウェルペンにおける状況
アントウェルペン王立音楽院の組織には、フランデレンの民族・言語・歴史に拠る音楽（および音楽教育）を目指す初代院長ペーテル・ブノワ（1834-1901）の思想が強く反映された。この思想とは「ベルギーの音楽家たちは、独創的な芸術を生み出すという『母国への務め』を果たすために、『人種の精神』を敷衍し、『母語』を貴ぶべきである」(Benoit 1868) というものであった。彼は『国民/民族作曲論』(1875)の中で、フランデレン地域に固有の音楽や芸術教育の必要性を具体的に説き、「我々の兄弟」(Benoit 1875: 39)であるヴェーバーやヴァーグナーの歌劇に反映された民族主義的な姿勢をその拠り所として示した。そして、この考え方をもとに 1898 年に新しい王立音楽院における音楽専門公教育を組織するに至る（大迫 2020, 大迫 2018[口頭発表])。ここにおいて、ブリュッセルとアントウェルペンの王立音楽院は全く異なる方針の下で共存する形となった。

(3) ベルギー文学思想およびフランス社会学・生理学理論との関係
ここまでの研究の過程で、上記音楽理論家たちの思想が、ベルギー文学におけるベルギー性（ゲルマン的な思想の影響を受けた「北方性」）を巡る思想と類似する傾向を持っていたことが明らかになった（大迫 2018[口頭発表])。同時に、ベルギー文学思想とは異なる音楽思想特有のベルギー性の存在も示唆された（研究継続中)。また、申請時に想定していた音楽・社会学・生理学理論の強い関連は、フェティスとその周辺以外の音楽理論・思想には見られず、これらの理論がフェティス以降の音楽専門公教育再組織やその背景に深く関連することは証明できなかった。

以上を中心にして、フランドル楽派・フランデレンの歴史という共通の遺産をもとに、院長達たちが様々な考え方を拠り所として、国の方針と関連し合い、統一や分裂を経ながら、音楽専門公教育再組織（その背景にある音楽理論・思想による国民への啓蒙・教育を含む）という面で国家形成を助けた過程を解明した。
本研究の成果は、研究開始当初に挙げた Deprez; Vos 1989 や岩本; 石部 2013 の研究、および研究遂行中に提出された Scheiff 2018 の研究を、音楽理論家達による音楽専門公教育再組織という観点から補完するものとなり得る。また、本研究の成果の一部を、授業やアウトリーチ活動を通して開示したことで、日本ではあまり注目されることのなかったベルギー音楽に関する事柄の普及の一助ともなったと考えられる。本研究遂行中に生まれた「ベルギー文学と必ずしも同一ではないベルギー音楽特有の独自性とは何か？」、「リエージュ王立音楽院など、他の王立音楽院との関係はどうであったか？」等の課題について、現在、21K00140 にて研究を継続している。

＜引用文献＞（報告者の論文については 5. 主な発表論文等に記載）

・Fétis, François-Joseph.1832. *Plan d’organisation de la musique dans le royaume de Belgique*.
・[Benoit], Pieterszoon. 1868.《 La nouvelle école musicale flamande, 》*Le Guide musical*, 41: [3], 43: [2-3], 44: [2-3], 45: [1-3], 46: [1-3].
・Benoit, Peter. 1875. *Verhandeling over de nationale toonkunde*. Antwerpen: De Vlaamsche Kunstbode.
・Deprez, Kaz; Vos, Louis. 1989. *Nationalism in Belgium: Shifting Identities, 1780-1995*. Basingstoke: Palgrave.
・岩本 和子; 石部 尚登 2013 『「ベルギー」とは何か?―アイデンティティの多層性』京都: 松籟社。
・Scheiff, Roland. 2018. *Du nationalisme en musique. Etude des mouvements nationaux musicaux en Belgique dans leur formation et leur réception par la presse artistique et littéraire belge entre 1871 et 1914*. Phd. Dissertation. Louvain-la-Neuve: UCL.

＜謝辞＞
本研究に対し、岡田暁生先生（京都大学)、岩本和子先生（神戸大学)、Henri Vanhulst 先生、Valérie Dufour 先生（ブリュッセル自由大学)、Christopher Brent Murray 先生（パリ国立高等音楽・舞踊学校）に貴重なご助言・専門知識の提供を頂きました。心よりお礼を申し上げます。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計4件（うち査読付論文　3件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　3件）

１．著者名 大迫知佳子	４．巻 8
２．論文標題 19世紀中期の音楽史記述に見る「ベルギー」音楽	５．発行年 2022年
３．雑誌名 子ども学論集	６．最初と最後の頁 59-67
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.60171/00002896	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 大迫知佳子	４．巻 33
２．論文標題 世紀転換期ベルギー北方の音楽家F.-A．ヘファールトのヴァーグナー受容におけるコスモポリタニズム的傾向	５．発行年 2020年
３．雑誌名 藝術研究	６．最初と最後の頁 35-45
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 大迫知佳子	４．巻 21
２．論文標題 ブリュッセル王立音楽院再組織を巡るF.-J．フェティスの言説	５．発行年 2019年
３．雑誌名 お茶の水音楽論集	６．最初と最後の頁 19-32
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 大迫知佳子	４．巻 30
２．論文標題 F.-J．フェティス vs．F.-A．ヘファールト ： 十九世紀ベルギーにおける調性起源論争	５．発行年 2017年
３．雑誌名 藝術研究	６．最初と最後の頁 1-11
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計6件（うち招待講演　0件／うち国際学会　0件）

1．発表者名 大迫知佳子
2．発表標題 ベルギー北方の音楽家の言説に見るヴァグネリスム
3．学会等名 日本音楽学会（2019年度支部横断企画第1回シンポジウム）
4．発表年 2019年

1．発表者名 大迫知佳子，安川智子
2．発表標題 ベルギーのフェティス、フランスのフェティス
3．学会等名 日本音楽学会（2019年度支部横断企画第2回シンポジウム）
4．発表年 2019年

1．発表者名 大迫知佳子
2．発表標題 19世紀中期ベルギーの音楽思想におけるゲルマン的なものへのまなざし
3．学会等名 日本音楽学会第69回全国大会
4．発表年 2018年

1．発表者名 大迫知佳子
2．発表標題 19世紀中期の「ベルギー音楽」―La Belgique musicale誌での連載「ベルギー音楽史」を中心に―
3．学会等名 第73回ベルギー研究会ブリュッセル大会
4．発表年 2018年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関